

## ⑧医療・介護・保健・福祉(公助)

私たちの目的は、  
一人ひとりの心身そして社会的健康が守られること だから

「10年後のありたい姿」は

一人ひとりが老いや健康に向き合い、自らの心身の健康を守ることや周りに対して  
できることを考えて動けることで、日常生活を自立して送ることができること

です

この「ありたい姿」の実現には、

### 基盤の運用強化

必要な時に限りある医療や介護、福祉サービスが効果的に受けられる

- 松本医療圏での連携した医療体制で受診したいときに困らない医療が受けられる
- 介護・障害福祉サービスが必要な人に行き渡っている。
- 在宅でも医療・介護が安心して受けられ、自分らしい終末期の過ごし方を選べる体制がある
- 医療、介護、福祉に携わる人材が確保できている

制度や必要な知識を学ぶ場がある

- 老い、健康、障害について一人ひとりが知る機会が豊富にある
- 医療や介護保険の制度が広く理解されている
- 異世代間が触れ合える交流機会がある
- 子どもから高齢者まで健康づくりの重要性が認識されている

自分で守り(自助)、助け合える(互助)マインドが醸成

- まずは自身の健康や幸せに自覚的になり、一人ひとりができることをやる
- そのうえで困ったら助け合う、「助けて」ときちんと言える地域になっている
- 孤独・孤立した人が減っている
- 医療・介護が必要になっても一人で悩まないでいい、一人で頑張りすぎないでいいと思える

自助→互助→公助の好循環が生まれている

- 自立して生きられる人が増え、健康寿命が延び、高齢化が活力に繋がっている
- 介護される人が減り、その結果、社会保障費の伸びが抑えられている
- 介護に携わる人がやりがいを持って働いている

の実現が  
必要です

### 【ワークショップの概要】

- 幅広い分野にわたるが、共通するのは、まず必要な制度やサービスの基盤があり、そのうえでそれを市民が知って、正しく利用し、できること・できないことを理解し、「できることは自分で」、「できないことは助け合う」という自助・互助のマインドが醸成されること。それにより、「自分」→「お互い」→「持続的に成り立つ福祉社会」の好循環が生まれる。
- 基盤づくりばかりに目が行きがちだが、その循環をスムーズにしていく仕事が公助と共助・互助の要。好循環によって、高齢でも、障害があっても、誰もが活躍でき、生きるのがラクになる社会に近づけていく。
- 好循環のどこに課題や重点があるかは公的サービスの分野ごとに違う現実があるが、これまでの縦割りを打破することが求められている。

⑧医療・介護・保健・福祉(公助)

私たちの目的は

「10. (仮)内閣府を成であること」

「10. (仮)内閣府を成であること」

この「ありがたい姿」の

結果

